

< 音楽 >

音楽科の研究テーマは、本校の研究の重点「小規模校の特性を生かした指導の在り方」を受け、「ひとりひとりが意欲をもって参加できる授業の在り方」である。

(1) 音楽日直の設定

4月当初から提示した音楽日直の仕事年間通して行うことで、授業に対する心構えができ、歌唱の際の細かい注意(例えば、姿勢や口の大きさなど)をする場面が少なくなってきた。また、和やかな雰囲気の中で授業がスタートでき、その後の授業においても積極的に取り組んでいるように思われる。これからも継続して行っていきたい。

(2) 基礎的・基本的事項の定着

新しい単元に入った段階で、その曲に使われている音符・休符、速度標語、演奏上の記号、強弱記号等は何度も繰り返し押さえ定着を図っている。このことで自らその曲の持つ表現方法について工夫できるようになってきている。

(3) 学習形態の工夫

学習形態も小規模(一番多い学級で16名)ながら一斉、グループ(パート)、ペア学習といろいろと変化させることで一人一人の進捗状況やつまずきに気付くことができ、一人一人に応じた練習やアドバイスを行うことができる。様々な形態での学習にも慣れ、一人でも声を出したり演奏したりできる生徒が増えてきている。

(4) 個人評価の継続

授業の最後には簡単なものではあるが、毎時一人一人学習を振り返る時間を設け、自己評価を行っている。これにより生徒個人の学習の定着度や関心・意欲が良く分かり次時につなげることができている。内容等については、さらに工夫する必要があるので、来年度への課題としたい。

(5) 研究授業について

研究授業を2月6日、1年生の器楽(和楽器・箏)の教材で行った。初めての楽器に対して、生徒一人一人が関心を持ち、積極的に演奏に取り組むことができた。

以上のようなことを重点に今年度研究を進めてきた。テーマである「ひとりひとりが意欲をもって参加できる授業の在り方」にあるように、生徒一人一人が『音楽』～音を楽しむことに積極的に取り組めるよう工夫してきた。音楽室を出てからも授業で学習した曲が聴こえてきたり、新しい曲を歌いたいと声にする生徒が出てきたり...少しずつの歩みではあるが、本年度の研究の成果は出てきているように感じる。しかし、まだ表現することを苦手と感じている生徒がいたり、鑑賞は好きだけれど表現は苦手という生徒がいたり、すべての分野において意欲をもってというところまでは行き着いていない。来年度はさらに授業の在り方を工夫し、生徒が意欲をもって参加できる授業を目指して研修を進めていきたい。